

授業科目	配当時期 単位数 1 時間数	1年後期 30	講義担当者 岡本 美奈 (実務経験有)
フィジカルアセスメント			
授業目標 対象の身体状態に関する情報を系統的に収集し、看護実践に不可欠なフィジカルアセスメントの技術を習得する			
ディプロマポリシーのキーワード 科学的根拠 看護実践力 探究心・主体的な学び			
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1・2	フィジカルアセスメントとは		講義
3	バイタルサインの観察とアセスメント: 体温		講義
4	バイタルサインの観察とアセスメント: 脈拍・呼吸		講義
5	バイタルサインの観察とアセスメント: 血圧		演習
6・7	バイタルサイン測定技術演習		講義
8・9	系統別フィジカルアセスメント: 呼吸器系		講義
10	系統別フィジカルアセスメント: 循環器系		講義
11	系統別フィジカルアセスメント: 腹部		講義
12	系統別フィジカルアセスメント: 筋・骨格系		講義
13	系統別フィジカルアセスメント: 神経系		演習
14・15	フィジカルアセスメント技術演習		演習
(実践的な教育内容) 総合病院における病棟と手術室勤務経験に基づき、自らの技術を活かして情報を多角的に集め、患者の健康状態をアセスメントする技術が修得できるように授業を行う。			
受講上の注意		評価方法	
患者さんの身体状況を理解するフィジカルアセスメントは、看護ケアを行うための重要な技術です。確実に身につけましょう。		試験: 60% 技術試験: 30% レポート: 10%	
教科書・参考書等			
教科書 茂野香おる他著. 系統看護学講座. 基礎看護学②基礎看護技術 I. 医学書院			
参考書 守田美奈子他著. 看護のためのフィジカルアセスメント. インターメディカ			

授業科目	配当時期 単位数 時間数	1 1年前期 30	講義担当者 前田淳子 (実務経験有)
看護学概論			
授業目標 看護実践の基礎となる看護の概念、看護の目的、看護の役割・機能、看護理論を学び、看護の本質を理解する			
ディプロマポリシーのキーワード 看護専門職としての責任の自覚 探求心 主体的な学び			
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1	看護への導入(1) 看護って何だろう 科目のガイダンス		講義
2	看護とは、看護の定義、看護の本質		講義
3	看護の歴史		講義
4・5	看護理論(グループワーク)		講義
6・7	看護理論 (グループワーク)		演習
8・9	発表 まとめ		演習
10	看護の対象の理解		講義
11	国民の健康状態と生活		講義
12	看護の提供者		講義
13	看護の提供のしくみ(1)		講義
14	看護の提供のしくみ(2)		講義
15	まとめ		講義
(実践的な教育内容) 総合病院における臨床経験に基づき、看護の本質と看護の対象である人間について学び、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能が理解できるように授業を行う。			
受講上の注意		評価方法 試験:100%	
看護学概論は「看護とは何か」という看護の概念を学問的に捉える看護学入門の科目です。看護実践の基礎となる、看護の本質、看護の役割・機能、看護の方法論等について学び、看護に対して関心を持ち自分なりの考えが持てるよう主体的に学習してください。			
教科書・参考書等			
教科書 医学書院 系統看護学講座 専門 看護学概論 基礎看護学 I			

科目名 看護研究	単位数：1 単位 時間数：30 時間	担当講師 池 内 嘉 代 子 (実務経験有)
授業目標 1. 看護研究の意義と基本的な流れを説明できる 2. ケーススタディの構造を理解できる 3. 自分の看護実践を振り返り、根拠をもって記述できる 4. 指導を受けながらケーススタディを構成できる		
授業計画（スケジュール・内容等の計画） 第 1 回 看護研究の意義と倫理 第 2 回 看護研究の進め方（概観） 第 3 回 論文の書き方（基礎） 第 4 回 ケーススタディとは何か 第 5 回 事例の選び方と焦点化 第 6 回 情報の整理（アセスメント） 第 7 回 看護の展開の書き方 第 8 回 考察の書き方① 第 9 回 考察の書き方② 第 10 回 ケーススタディ作成準備 第 11 回 ケーススタディ計画書作成 第 12、13 回 関西看護学生看護研究大会参加 第 14、15 回 ケーススタディ執筆 (実践的な教育内容) 総合病院における病棟勤務経験に基づき、看護研究の基本的な方法論を理解し、演習を行うことで看護研究の基本的な技術が習得できるよう授業を行う。		
受講上の注意 この授業は看護過程実習での体験をもとに、自らの看護を振り返り、論理的に記述する力を養うための土台となります。各回で作成するワークシートや課題は、ケーススタディ作成の基礎資料となります。したがって未提出や未完成の場合、後の学習に支障をきたすため、必ず期限内に取り組んでください。また看護過程実習と連動する授業でもあるため授業内容を「知識として理解する」だけでなく、「実習でどのように活用するか」を常に意識して受講してください。		評価方法 提出物 30% ケーススタディ 70%
テキスト 医学書院 看護研究 照林社 わかりやすいケーススタディの進め方 関西看護学生看護研究大会 演題収録（届き次第配布予定）		

授業科目		配当時期 1年前期 単位数 1 単位 時間数 30時間(15回)		講義担当者 池内 嘉代子 (実務経験有)	
看護共通基本技術論					
授業目 標					
看護技術の概念と特性について学び、看護技術習得の重要性を理解し、日常生活援助に共通する感染防止の技術、安全確保の技術、安楽の技術を習得する					
ディプロマポリシーのキーワード					
看護実践力 看護専門職としての責任の自覚 (実践的な教育内容)					
総合病院における病棟勤務経験に基づき、看護の基本的な方法論を理解し、演習を行う					
授業の流れ					
回	月日	学習内容		方法	
1	4/14	看護技術とは何か 看護技術の実践要素と修得		講義	
2	4/20	感染予防の基礎知識		講義	
3	4/21	標準予防策		講義	
4	4/27	感染経路別予防策		講義	
5	4/28	感染経路別予防策		演習	
6	5/12	スタンダードプリコーションの実際		講義	
7	5/20	洗浄・消毒・滅菌・無菌操作		講義	
8・9	5/25	中間試験 無菌操作		演習	
10	6/1	洗浄・消毒・滅菌・無菌操作		講義	
11	6/2	感染性廃棄物の取り扱い		講義	
12	6/9	医療施設における感染防止		講義	
13	6/17	安全確保の基礎技術		講義	
14	6/23	安楽確保の援助		講義・演習	
15	6/29	まとめ			
	7/6	終講試験		50分	
受講上の注意				評価方法	
				試験を全2回実施する 各試験の割合 4:6 ※全2回の合計点(100点満点)が6割に満たない場合、再試験を行う。再試験で6割に満たない場合単位習得不可となる。	
看護技術とはなにか、看護技術の提供について学び、看護を志す初学者としての基本的な考え方を身につけるとともに、看護技術を支える要素である看護の対象者、そして看護を提供する自分自身を守るための安全・安楽の確保の基本技術を学びます。					
教科書・参考書等					
教科書 有田清子他著.系統看護学講座.基礎看護技術 I・II.医学書院					
参考書 竹尾恵子監修.看護技術プラクティス.学研					

負担

授業科目	配当時期 単位数 時間数	2年前期 1 15	講義担当者 福井由紀子 (実務経験有)
在宅看護概論			
授業目標 地域・在宅看護では、予防から看取りまで長い期間を通して暮らしを支える為に、社会保障制度に基づいた看護サービスを提供する。この科目では、地域・在宅看護の実践にあたり、知っておくべき法制度について学ぶ。			
ディプロマポリシーのキーワード 地域社会 健康課題 健康と生活の質 多職種連携・協働			
授業の流れ			方法
回	学習内容		方法
1	介護保険制度		講義
2	介護保険精度		講義
3	医療保険制度		講義
4	訪問介護制度		講義
5	訪問看護制度		講義・GW
6	権利擁護		講義
7	暮らしの中で看護する心がまえ		講義
8	終講試験		
(実践的な教育内容) 総合病院での病棟勤務経験に基づき、地域看護活動における在宅看護の位置づけと在宅看護の目的やその制度について理解できるように授業を行う。			
受講上の注意 地域・在宅看護の法制度のところは、国家試験でも問われる頻度が高い分野です。しっかり理解できるよう、予習・復習に努めてください。提出物が評価の20%を占めますので、提出忘れのないようにしてください。			評価方法 試験:80% 授業後のレポート4回、1回5点 20%
教科書・参考書等 教科書 秋山正子他著. 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎. 医学書院 河原加代子著:系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院			

授業科目 在宅看護支援論演習	配当時期 2 年後期 単位数 1 時間数 1 5	講義担当者 福井 由紀子 (実務経験有)																					
授業目標 地域で療養する対象とその家族の生活の質を維持・向上するための思考過程（看護過程）と地域・在宅看護特有な看護技術を習得する																							
ディプロマポリシーのキーワード 科学的根拠 健康と生活の質																							
授業の流れ <table border="1" data-bbox="175 739 1372 1075"> <thead> <tr> <th>回</th><th>学習内容</th><th>方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>地域・在宅看護過程の展開</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>2</td><td>基本情報・アセスメントの書き方</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>3</td><td>訪問時のマナー</td><td>講義・GW</td></tr> <tr> <td>4</td><td>個別指導</td><td>個別指導</td></tr> <tr> <td>5・6</td><td>事例の解説、実習記録の書き方</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>7・8</td><td>地域・在宅看護技術演習</td><td>演習</td></tr> </tbody> </table> （実践的な教育内容） 総合病院での病棟勤務経験に基づき、看護過程と在宅看護に特有な在宅看護技術を修得するための授業を行う			回	学習内容	方法	1	地域・在宅看護過程の展開	講義	2	基本情報・アセスメントの書き方	講義	3	訪問時のマナー	講義・GW	4	個別指導	個別指導	5・6	事例の解説、実習記録の書き方	講義	7・8	地域・在宅看護技術演習	演習
回	学習内容	方法																					
1	地域・在宅看護過程の展開	講義																					
2	基本情報・アセスメントの書き方	講義																					
3	訪問時のマナー	講義・GW																					
4	個別指導	個別指導																					
5・6	事例の解説、実習記録の書き方	講義																					
7・8	地域・在宅看護技術演習	演習																					
受講上の注意 この授業では、地域・在宅看護過程の思考過程や訪問時のマナーなどを学ぶ、実習に向けた重要な授業です。実習のイメージをしながら、積極的に授業に取り組んでください。また提出物での評価も多いため、必ず期限を守って提出するようにしてください。最後の演習では発表会を行います。評価対象になりますので、積極的に取り組んでください。	評価方法																						
	提出物 30% ①事前学習 5点 (A: 5 B:3.75 C: 2.5 D: 1.25) ②基本情報 10点 (A:10 B:7.5 C: 5 D:2.5) ③アセスメント 15点 (A:15 B:11.25 C:7.5 D:3.75)																						
教科書・参考書等 参考書 河原加代子他著. 系統看護学講座. 地域・在宅看護の実践. 医学書院 レジメを配布します	演習 20% 試験 50% ※提出物の遅れは受け取りません																						

授業科目	配当時期 単位数 時間数 2 年前期 1 15	講義担当者 杉田千明 (実務経験有)
小児看護援助論Ⅰ		
授業目標	1. 病気や入院が小児および家族に与える影響を理解し、援助の必要性を説明できる。 2. 発達段階に応じたコミュニケーション技術およびプレパレーションの方法を理解し、適切な援助方法を提案できる。 3. 慢性疾患や障害をもつ小児への継続的支援（在宅看護・地域連携）について理解し、支援の方向性を考察できる 4. 小児看護における安全管理（事故防止・感染予防など）の重要性を理解し、基本的な対策を説明できる。	
ディプロマポリシーのキーワード	科学的根拠	
対象の全人的理解	探求心	看護実践力
授業計画		
< 回 >	< 学習内容 >	< 方法 >
1	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 入院中の看護 外来における子どもと家族への看護 急性期にある子どもと家族への看護	講義
2・3	慢性期にある子どもと家族への看護 終末期にある子どもと家族への看護 在宅における子どもと家族への看護	講義・GW
4	バイタルサインの特徴と発達段階に応じた観察 健康障害の症状と看護	講義 講義
5・6	手術、検査や処置を受ける子どもと家族への看護	講義・GW
7	子どもの事故 子どもの虐待と看護 災害を受けた子どもと家族への看護/被虐待児と家族への看護	講義・GW
8	終講試験	
※5回目に小テストを実施します	(実践的な教育内容)	
大学病院と母子センターでの小児看護の臨床経験に基づき、小児の成長・発達並びに健康状態に応じた日常生活上の援助及び検査や処置・治療における適切な援助方法を理解し、実施するとともに小児看護における看護課程の展開技術を修得するための演習を行う。		
受講上の注意	評価方法	
小児看護学概論で学んだ内容を理解し受講してください。予習としてテキストの該当頁を熟読するとともに、関連動画がある場合は視聴しておくこと。	小テスト：30％ GW（内容・参加状況）：20％ 終講試験：50％	
教科書・参考書等		

教科書	奈良間美保他著、系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護学	、医学書院
参考書	奈良間美保他著、系統看護学講座 小児臨床看護各論	、医学書院
教材	濱名喜代他 小児看護技術演習テキスト	ヘルス出版

32期生

授業科目		配当時期	2 年前期	講義担当者
小児看護学概論		単位数	1	杉田千明
		時間数	15	(実務経験有)
授業目標				
1. 小児看護の目的・役割・特徴・家族を含めた小児看護の基本的視点を理解できる				
2. 子どもの成長発達の特徴と健康課題を説明できる				
3. 子どもの権利を尊重した看護の重要性を理解できる				
ディプロマポリシーのキーワード				
対象の全人的理解	人間尊重	科学的根拠	健康状態に応	
多職種連携や協働	主体的に学ぶ			
授業計画				
< 回 >	< 学習内容 >			< 方法 >
1	小児看護の目的・役割・対象			講義
	子どもの権利と倫理	子どもの権利条約・インフォードアセント		
	小児看護の歴史と変遷	日本の小児医療の発展		
2	成長発達の基礎			GW/講義
3・4	発達段階別特徴（新生児・乳児）			GW/講義
5	発達段階別特徴（幼児期）			GW/講義
6	発達段階別特徴（学童期・思春期）			GW/講義
7	小児の健康問題	生活習慣・予防接種		
	病児と家族の心理・家族看護			
	地域における小児看護	母子保健・学校保健・チーム医療（多職種連携）		GW/講義
8	終講試験			
小テスト	2・3・6・7回の講義で小テストを実施します			
	(実践的な教育内容)			
	大学病院と母子保健医療センターでの小児看護の臨床経験に基づき、小児と家族について学び、			
	小児の成長課程と健康増進のための小児看護が理解できるように授業を行う。			
受講上の注意			評価方法	
予習：テキストの該当項目を熟読するとともに、理解できていない			終講試験	50%
箇所を明確にし、また、関連動画がある場合は視聴しておくこと			小テスト	40%
復習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を			課題レポート	10%
整理し理解を深めること				
グループワークに積極的に参加できるように取り組んでください。				
教科書				
奈良間美保他著、系統看護学講座 小児看護学総論、医学書院				

授業科目		配当時期	2 年後期	講義担当者																																						
成人看護 援助論演習		単位数	1	瀬良垣 香																																						
		時間数	20																																							
授業目標																																										
健康状態に応じた健康問題を解決するための思考過程（看護過程）から必要な援助を考える																																										
ディプロマポリシーのキーワード																																										
対象の全人的理解		科学的根拠	看護実践力																																							
探求心		主体的な学び																																								
授業計画																																										
<table><tr><td>< 回 ></td><td>< 学習内容 ></td><td></td><td>< 方法 ></td></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンス、事例紹介、基礎学習（ 周手術期 ）</td><td>8/25 基礎学習提出</td><td>講義・演習</td></tr><tr><td>2</td><td rowspan="3">事例のアセスメント演習</td><td>9/2 基本情報提出</td><td>演習</td></tr><tr><td>3</td><td>9/8 アセスメント提出</td><td>演習</td></tr><tr><td>4</td><td>9/24 基本情報・アセスメント再提出</td><td>演習</td></tr><tr><td>5</td><td rowspan="3">事例の関連図作成演習</td><td></td><td>演習</td></tr><tr><td>6</td><td>10/6 関連図提出</td><td>講義</td></tr><tr><td>7</td><td>10/20 関連図再提出</td><td>演習</td></tr><tr><td>8</td><td rowspan="3">リーフレット作成演習</td><td></td><td>講義</td></tr><tr><td>9</td><td>10/27 リーフレット提出</td><td>演習</td></tr><tr><td>10</td><td></td><td>講義</td></tr></table>					< 回 >	< 学習内容 >		< 方法 >	1	ガイダンス、事例紹介、基礎学習（ 周手術期 ）	8/25 基礎学習提出	講義・演習	2	事例のアセスメント演習	9/2 基本情報提出	演習	3	9/8 アセスメント提出	演習	4	9/24 基本情報・アセスメント再提出	演習	5	事例の関連図作成演習		演習	6	10/6 関連図提出	講義	7	10/20 関連図再提出	演習	8	リーフレット作成演習		講義	9	10/27 リーフレット提出	演習	10		講義
< 回 >	< 学習内容 >		< 方法 >																																							
1	ガイダンス、事例紹介、基礎学習（ 周手術期 ）	8/25 基礎学習提出	講義・演習																																							
2	事例のアセスメント演習	9/2 基本情報提出	演習																																							
3		9/8 アセスメント提出	演習																																							
4		9/24 基本情報・アセスメント再提出	演習																																							
5	事例の関連図作成演習		演習																																							
6		10/6 関連図提出	講義																																							
7		10/20 関連図再提出	演習																																							
8	リーフレット作成演習		講義																																							
9		10/27 リーフレット提出	演習																																							
10			講義																																							
（実践的な教育内容） 特定機能病院における長い臨床経験による幅広い分野での看護経験と指導経験に基づき、看護課程と周手術期に特有な看護技術や療養支援に必要な看護技術が習得できるように授業を行う。																																										
受講上の注意		<table><tr><td>評価方法</td><td>課題提出が100%</td></tr><tr><td>基礎学習</td><td>15点（15, 12, 9, 6, 0）</td></tr><tr><td>基本情報</td><td>15点（15, 12, 9, 6, 0）</td></tr><tr><td>アセスメント</td><td>25点（25, 20, 15, 10, 0）</td></tr><tr><td>関連図</td><td>25点（25, 20, 15, 10, 0）</td></tr><tr><td>アセスメント・基本情報</td><td>修正5点</td></tr><tr><td>関連図</td><td>修正5点</td></tr><tr><td></td><td>※修正内訳（5, 4, 3, 2, 0）</td></tr><tr><td>リーフレット</td><td>10点（10, 8, 6, 4, 0）</td></tr><tr><td>合計</td><td>100点</td></tr></table>			評価方法	課題提出が100%	基礎学習	15点（15, 12, 9, 6, 0）	基本情報	15点（15, 12, 9, 6, 0）	アセスメント	25点（25, 20, 15, 10, 0）	関連図	25点（25, 20, 15, 10, 0）	アセスメント・基本情報	修正5点	関連図	修正5点		※修正内訳（5, 4, 3, 2, 0）	リーフレット	10点（10, 8, 6, 4, 0）	合計	100点																		
評価方法	課題提出が100%																																									
基礎学習	15点（15, 12, 9, 6, 0）																																									
基本情報	15点（15, 12, 9, 6, 0）																																									
アセスメント	25点（25, 20, 15, 10, 0）																																									
関連図	25点（25, 20, 15, 10, 0）																																									
アセスメント・基本情報	修正5点																																									
関連図	修正5点																																									
	※修正内訳（5, 4, 3, 2, 0）																																									
リーフレット	10点（10, 8, 6, 4, 0）																																									
合計	100点																																									
教科書・参考書等																																										
参考書	リンダ J.カルペニート.看護診断ハンドブック/医学書院 臨床外科看護総論																																									

授業科目	配当時期 単位数 時間数	2年前期 1 15	講義担当者 瀬良垣 香 (実務経験有)
成人看護学概論			
授業目標			
成人期にある対象の看護を実践するために、成人のライフステージにおける身体の諸機能の変化、心理的・社会的発達課題やライフスタイルがもたらす健康障害の概要について「生活者」の視点を踏まえながら学習する。 また、成人期における看護の理念や概念が理解でき、成人の特徴に応じたアプローチの必要性及び健康の保持・増進・疾病予防の方法について学習する。			
ディプロマポリシーのキーワード 対象の全人的理解 価値観や主体性の尊重 探求心 主体的な学び			
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1	シラバス説明 成人の理解に向けての統計		講義
2・3	第1章 成人と生活 A対象の理解 B対象の生活 第2章 生活と健康 A成人を取り巻く環境 B生活と健康を守りはぐくむシステム		講義
4・5	第3章 成人への看護アプローチの基本 A生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 B症状マネジメント C健康問題を持つ大人と看護師の人間関係		講義
6	D人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ Eチームアプローチ F看護におけるマネジメント G倫理的判断 H意思決定支援 I家族支援		講義
7	第4章 ヘルスプロモーションと看護 第5章 健康をおびやかす要因と看護		講義
(実践的な教育内容) 特定機能病院における長年の臨床経験による幅広い分野での看護経験と指導経験に基づき、成人各期の特徴や固有の健康問題について学び、成人看護学の基礎となる考え方やアプローチについて理解できるように授業を行う。			
受講上の注意			評価方法
成人期はライフサイクルの中で最も長い期間で、身体的・精神的背景だけでなく社会的役割の変化が大きい時期でもある。そのことが成人期にある人々の健康にどのように影響しているか理解できるようにする。 理論についてはその都度参考書を提示する。			試験：100%
教科書・参考書等			
教科書 医学書院 成人看護学総論			

#NAME?

授業科目	配当時期 単位数 時間数	1 1 30	1年前期	講義担当者 中西 知佐子 (実務経験有)
生活援助技術論Ⅰ				
授業目標 日常生活援助技術である環境整備、活動・休息援助技術について基礎知識を学び、安全・安楽に実施できる技術を習得する。				
ディプロマポリシーのキーワード 看護実践力 看護専門職としての責任と自覚 探究心 主体的な学び				
授業の流れ				
回	学習内容			方法
1	環境調整の援助の基礎知識			講義
2	基本的活動の援助			講義
3・4	ベッドメイキング			演習
5・6	体位変換			演習
7・8	臥床患者のシーツ交換			講義・演習
9・10	移動(歩行・移乗・移送)			演習
11・12	移動(歩行・移乗・移送)			演習
13・14	環境整備			演習
15	睡眠・休息の援助			講義
(実践的な教育内容) 総合病院での病棟勤務と特別養護老人ホームでの勤務経験に基づき、日常生活援助技術についての基礎知識を学び、安全・安楽に実施できる技術が習得できるように授業を行う。				
受講上の注意 環境調整技術は、常に全ての看護学実習で必要となる技術です。対象にとってのあんぜん・安楽な環境調整技術習得を目指し、主体的に学習をすすめてください。				評価方法 筆記試験：90% 課題レポート：10%
教科書・参考書等 教科書 有田清子他著. 系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ. 医学書院 参考書 竹尾恵子監修. 看護技術プラクティス. 学研				

授業科目	配当時期 2 年後期	講義担当者
母性看護援助論演習	単位数 1 時間数 15	奥野 高子 (実務経験有)
授業目標		
周産期にある母子およびその家族を対象とするウェルネス思考をふまえた看護過程展開と周産期ケアに必要な技術を習得する		
ディプロマポリシーのキーワード		
対象の全人的理解	科学的根拠	看護実践力
主体的な学び	探求心	
授業の流れ		
回	学習内容	方法
1	母性看護過程マタニティサイクルにおける看護の特徴 ウェルネス思考の考え方 事例紹介（基礎情報・妊娠経過）	講義
2	妊娠・胎児の身体的健康状態のアセスメント 妊婦の看護にかかわる技術	講義・演習
3	妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント（解説） 事例紹介（追加情報、分娩経過）	講義・演習
4	妊婦・分娩期のアセスメント 妊婦・分娩期のアセスメント（解説）	講義
5	事例紹介（追加情報：産褥・生後 1 比目） 産褥1日目の褥婦・新生児のアセスメント 褥婦の看護に関わる技術	演習
6	産褥一日目の褥婦・新生児のアセスメント 産褥一日目の褥婦・新生児のアセスメント（解説）	技術演習 講義・
7・8	新生児の看護に関わる技術 まとめ	技術演習
(実践的な教育内容)		
助産師としての豊富な臨床経験に基づき、周産期にある母子およびその家族を対象とするウェルネス思考をふまえた看護過程展開と周産期ケアに必要な技術を習得するための演習を行う。		
受講上の注意	評価方法	
母性看護援助論で学んだ知識を実際の看護展開に活用できるよう、思考過程や技援助技術を習得する科目です。母性看護援助論で学習したことを復習したうえで受講してください。	課題：70% 終講試験：30%	
教科書・参考書等		
森 恵美他著. 系統看護学講座 母性看護学 2 母性看護学各論 平澤美恵子著 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディア		

授業科目	配当時期 単位数 時間数	2年前期 1 30	講義担当者 奥野高子 (実務経験有)
母性看護学概論			
授業の流れ 母性看護の基盤となる概念や母性看護の対象を取り巻く社会の現状を学び、女性の一生を通じた健康の保持・増進、疾病予防および次世代の健全育成を支援する重要性について理解する			
ディプロマポリシーのキーワード 専門職としての責任の自覚 看護実践力 主体的な学び 多職種連携			
授業の流れ			
回	学習内容		方法
1	母性看護の基盤となる概念 母性とは 母子関係と家族発達		講義
2	母性看護の基盤となる概念 セクシュアリティ		講義
3	リプロダクティブヘルス ヘルスプロモーション 母性看護のあり方		講義
4	ライフサイクルにおける形態・機能の変化		講義
5	妊娠・胎児の性分化		講義
6	女性のライフサイクルと家族 母性・父性の発達		講義
7・8	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状		講義
9	ライフサイクルにおける女性の健康と看護		講義
10	性成熟期の健康と看護		講義
11	更年期・老年期の健康と看護		講義
12	リプロダクティブヘルスケアⅠ 家族計画 性感染症とその予防		講義
13	リプロダクティブヘルスケア2 HIVに感染した女性に関する看護 人工妊娠中絶と看護 喫煙と女性の健康		講義
14	リプロダクティブヘルスケア3 性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護 国際化社会と看護		講義
15	母性看護における倫理的問題 まとめ		演習・講義
(実践的な教育内容) 助産師としての豊富な臨床経験に基づき、女性のライフスタイルの特徴や発達課題について理解し、母性看護を展開するために必要な基礎知識が習得できるように授業を行う。			
受講上の注意 受講前に母性看護に関連する解剖生理学について復習しておきましょう また、母性の健康が次世代に受け継がれる際の看護のあり方、性の多様性、リプロダクティブヘルスケア等様々なことを学ぶ科目です。常に社会に関心をむける習慣をつけておきましょう		評価方法 試験：90% 小テスト：10% 終講試験 80% 課題提出物：10%	
教科書・参考書等 教科書 森 恵美他著. 系統看護学講座. 母性看護学① 母性看護学概論. 医学書院			